

早期自立型空隙充填材

TAC 技術情報
I-016001

打設後速やかに硬化・自立が可能

●概要

早期自立型空隙充填材は、充填後の側圧を極力低減できるよう打設後速やかに自立する充填材です。

早期自立型空隙充填材配合例 1.02m³ 当り

A 液 (1,000L)					B 液
硬化材	助材クレーサント	起泡剤	水	空気	塑強調整剤
普通セメント	TAC-β	TAC フォーム H	清水	空気量	TAC-3G
250 kg	125 kg	1.0 kg	522 L	350 L	20 L

※A 液+ B 液性状: 比重 0.91、1 時間後フロー値 80mm、σ 28 日 = 0.5N/mm²

●お客様のメリット

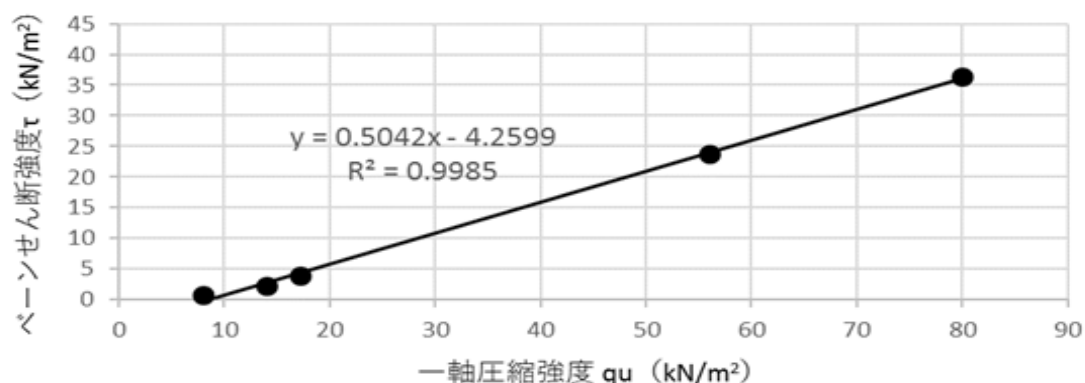
- 打設後速やかに自立するため、充填後の側圧を低減できます。掘削立坑の化粧版と立坑間の空隙などを充填するのに適しています。
- B 液量を調整することで、空隙に応じた打設速度と流動性を確保することができます。

●特徴

- 比重が 0.9 と軽く、なおかつ 28 日で 0.5N/mm² 程度の一軸圧縮強度を有しています。

せん断強度と一軸圧縮強度の経時変化

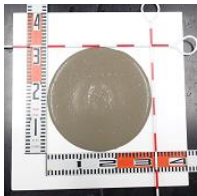
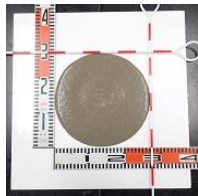
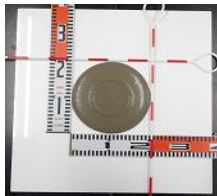
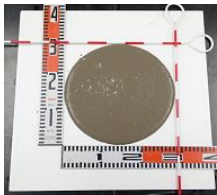
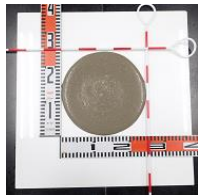
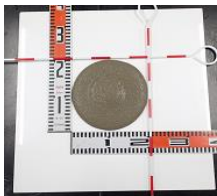
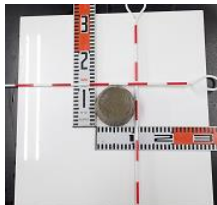
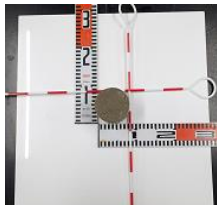
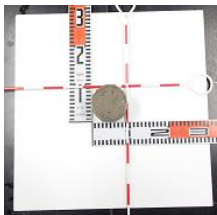
経時	ベーンせん断強度 (kN/m ²)	一軸圧縮強度 (kN/m ²)	(ベーンせん断強度) (一軸圧縮強度)
1 時間	0.34	測定不可	—
2 時間	0.51	測定不可	—
3 時間	0.72	8.0	0.09
5 時間	2.30	14.0	0.16
6 時間	3.92	17.2	0.23
24 時間	23.8	56.0	0.43
48 時間	36.3	80.0	0.45
28 日	—	570.0	—



○ B 液添加量を変化させることで、ゲルタイム、流動性、自立(フロー値 80cm)までの時間を調節することができます。

B 液添加量とフロー値の測定例を次に示します。B 液量を増やすほどセメントの水和反応が促進され、流動性が無くなることが判ります。

B 液添加量の違いによるフロー値測定例（円筒フローコーン）

試験項目 B 液	ゲルタイム	直後	30 分後	1 時間後
0 L		 300 × 300 mm	 270 × 270 mm	 200 × 200 mm
10 L	5 秒程度	 290 × 290 mm	 250 × 250 mm	
20 L	5 秒程度	 200 × 200 mm	 110 × 110 mm	 80 × 80 mm
30 L	7 秒程度	 90 × 90 mm		